

各災害種別のハザードマップ

地震ハザードマップ

岐阜市では、南海トラフ巨大地震が発生した場合の市内の被害に関し、独自に予測調査を実施しました。調査結果のうち、建物の倒壊危険度、液状化の危険度を地図上で表示しています。発災時における被害の低減にお役立てください。

建物倒壊危険度マップ

50m四方に分割した区域の中で、全壊及び半壊する建物がどれくらいあるかを予測し、全壊・半壊する建物の割合から建物倒壊の危険度を示しています。危険度の高い地域では、古い建物の倒壊に特に注意が必要です。

※建物が存在する区域についてのみ着色表示しています。 ※判定には平成30年度時点の建物データを使用しています。

液状化危険度マップ

被害想定調査の前提とした南海トラフ巨大地震の揺れにより液状化現象が発生する可能性を示す指数(PL値)を、50m四方で算出し判定した、液状化の危険度を示しています。

※PL値とは、ある地点の液状化の可能性を総合的に判断するため、各土層の液状化に対する強度を深さ方向に重みをつけて足し合わせた値です。

PL=0.0	危険性が低い
0.0<PL≤5.0	液状化の可能性が低い
5.0<PL≤15.0	液状化の可能性がある
15.0<PL	液状化の危険性が高い

洪水ハザードマップ

水防法に基づき河川管理者(国(木曽川上流河川事務所)又は岐阜県)が作成した浸水想定区域図と水害危険情報図に、避難施設や水害時の危険箇所を重ねて表示したものです。表示している浸水の状況は、想定し得る最大規模の降雨による状況を予測したものです。自宅や職場付近の浸水深、避難施設までの経路を事前に確認してください。屋内安全確保が適さない場合(1階床上浸水が予想されるが、自宅が平屋のため2階に避難できない場合など)は、特に早めに避難所等の安全な場所に避難するよう心がけてください。

※このマップに示した浸水想定区域は、複数のシミュレーション結果のうち、その地点にとって最大となる浸水の深さを表した範囲であり、この浸水が同時に必ず起こるとは限りません。

※マップに示した浸水の予想される深さや範囲は、計算結果によるものであり、雨の降り方によっては浸水の想定されていない地域においても浸水したり、想定される深さが実際の深さとは異なる場合があります。

※浸水想定区域図及び水害危険情報図は、各河川の想定最大規模の雨量を前提に作成されており、河川毎に異なります。

内水ハザードマップ

平成2年以降の集中豪雨の際の浸水記録をもとに作成したものです。また、地形の凹凸を考慮し、浸水を想定する検討を行い、浸水範囲の補足を行っています。検討には、1時間に74mmの豪雨(検討時点での、平成2年以降の最大時間雨量)を使用しました。

内水ハザードマップは、主に身近な水路からの浸水を対象に作成しています。雨の降り方や、河川の浸水状況によっては、本マップで示した範囲や深さを超えることがありますので注意が必要です。

※河川のはん濫(外水)と水路からの浸水(内水)の区別が難しい場合は、あわせて示しています。

※水路が整備され、浸水しにくくなった浸水範囲についても過去の記録から示しています。

※建物や極めて小さい地形の凹凸は考慮されていません。

土砂災害ハザードマップ

土砂災害防止法に基づき岐阜県が指定した、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に、避難場所、主な避難経路を重ねて表示しています。

普段から、ご自宅周辺の災害危険箇所を確認するとともに、細かな避難経路を各ご家庭で地図上に記載しておきましょう。また、特に土砂災害警戒区域内にお住まいの方は、前兆現象などに注意し早めの避難を心がけましょう。

地震ハザードマップ

建物倒壊危険度マップ

液状化危険度マップ

洪水ハザードマップ

内水ハザードマップ

土砂災害ハザードマップ